

付属資料12. 質問票・インタビューシート

別添 1. 質問票（書面での回答を期待するもの）

I. 本プロジェクトの背景および全体に関連した質問

（質問対象者：北京市消防局もしくはプロジェクトチーム）

ー以下の事柄につき、最近の情報を入手可能な範囲で、既存の統計・レポート（あるいは、その要約）の形で提供いただきたい。

1. 北京市内及び中国全体の火災に関する最近統計（94年以降）
2. 過去3年以内に発表された消防部門に関わる行政計画
（例：北京市消防事業建設計画、実績も含む）
3. 消防部門に関わる法律・規則等（特に過去3年以内の動き）

II. 本プロジェクトの実績に関する質問：PDMの指標及び入手手段に基づき作成

（質問対象者：北京市消防局もしくはプロジェクト・チーム）

1. 投入（実績は、明確な計画がある場合は、それと対比する形で示して下さい）

- 1) 中国側カウンターパート／スタッフ一覧表
- 2) 中国側プロジェクト経費一覧表
- 3) 中国側プロジェクト提供施設・設備等一覧

2. 活動

- 1) 年次活動計画と実績：できれば、進捗度を計画と実績のバーチャートで比較したものを含む、団員によるインタビュー用に専門家、C/Pに成果項目別・分野別のごく簡単なレポート（活動の達成度や自己評価を含む）を準備していただけたらと思います。
- 2) 研修生アンケート結果（あれば）

3. 成果（PDM中の指標、2）と3）は分野別に整理して下さい）

- 1) 北京消防センターの運営体制が確立される
・予算と実績値　・職員配置実績
- 2) 実習・訓練用機材が整備される
・機材設置状況（機材の稼働状態を含む）
・維持管理状況（維持管理体制を示す文書・維持管理業務マニュアル等）
- 3) 消防職員及び事業所消防技術者の為の研修が運営される
・カリキュラム及び教材開発状況（カリキュラムと教材のリスト、なお、現物は調査時の視察で確認できれば良い）
- 4) 市民に対する防災に関する啓蒙活動が向上する
・センター来訪者数（当初計画と実績）・セミナー実施数（当初計画と実績）

4. プロジェクト目標

- 1) 特殊火災に対する内容の研修コース数 2) 特殊火災対策に必要な機材設置状況

以上

別添 2.北京消防訓練センター・研修生に対するアンケート実施要領

1. 目的

本プロジェクトの中間時点での計画達成度を測るため、プロジェクト目標の指標データの一部とする。

2. 対象

当センターでこれまで実施した全ての研修（5回）について、それぞれ研修生10名をランダムに選ぶ。

3. 配布・回収方法

当センターがアンケート用紙の配布・回収を行う。上記の対象者に対し、12/1 頃にアンケート用紙を配布した上で、12/6 までに回収していただく。

4. アンケート用紙

次頁の様式を用いる。

以 上

北京消防訓練センターにおける研修への参加者に対する質問票

記入日（ 月 日）

コース名：

時期：

資格・職位等：

所属部署名：

研修を受けられた方へ：今後当センターでの研修の効果を高めるために、研修内容の業務への利用状況・効果についてお伺いします。

（研修動機に違いが有りうるのであれば、設問を挿入）

1. 研修の内容は、何らかの形で現在の業務に役立っていますか？（以下の選択肢から1つ選んでレを付け、また、具体的にはどういう形で役に立っているのかを教えてください。）

- 1) 非常に役立っている。
- 2) かなり役に立っている。
- 3) あまり役に立っていない。
- 4) 全く役に立っていない。

選択肢1)、2)の場合、具体的な例を教えてください：

2. 上記1.での評価への補足説明として以下の項目で該当するものがありましたら、複数選んでも構いませんので、レを付けて下さい。

- 1) 仕事はかなりはかどるようになった
- 2) 仕事の質が高まった
- 3) これから役に立つ技術である
- 4) 既に知っている事柄であった
- 5) むずかしすぎた
- 6) 業務に関連はあったが、理論的すぎてあまり実践的でなかった
- 7) 実践的ではあったが、業務にあまり関連していなかった
- 8) その他（具体的に記述）：

3. 下記の各項目について、最もふさわしい選択肢を選び、丸で囲んで下さい

1) 研修レベル

高すぎる・ちょうどよい・低すぎる

2) 研修期間

長すぎる・ちょうどよい・短すぎる

3) 研修内容（講義・演習のバランス）

講義が長すぎる・バランスがとれている

4) 講師の指導方法・技術

優れている・ふつう・改善の必要が高い

5) 研修機材について

高度すぎる・適切である・簡易すぎる

以上の項目以外にも、是非改善すべきと思われる点がありましたら、以下に簡単に説明下さい。上記の回答に対する補足でも結構です。

--

最後に、当センターでの研修効果を現在の職場で活かしていくために環境（組織・制度・設備等）の整備が必要であれば、記述して下さい。

--

以上

別添 3..北京消防訓練センタープロジェクト参加者（*）への質問票

*註：既に活動に入っている中国側 C/P を意味する
記入日（ 月 日）

1. 貴方のこのプロジェクトでの担当分野につき、お書き下さい。（選択して丸で囲む）
消火戦術及び技術訓練・市民防火防災・消防設備操作及びメンテナンス・建築防火
2. 貴方は、このプロジェクト（特に自分の関わった部分）の成果についてどう感じていますか？ もし、プロジェクトを評価するならば、5段階評価（5－「極めて良好」、4－「良好」、3－「ふつう、まずまず」、2－「やや不十分」、1－「全く不十分」）のうち何ですか？ その理由についてもお書き下さい。

5分の（ ）理由：（ ）
評価が1・2・3の場合は、改善すべき方法についてもお書き下さい。
（ ）
3. 日本人専門家（指導／研究の姿勢、方法等）についての印象をお聞かせ下さい。
4. 今後貴方は、このプロジェクトでの経験をどう生かしますか（どちらかお選び下さい）？
「同じ職場にとどまって研究を続けたい」
「かならずしも同じ職場にとどまらず、他の分野／地域で経験を生かしたい」
5. 上記以外にこのプロジェクトについての良いと思う点、あるいは、改善すべき点があれば、お書き下さい。
6. （もしあなたが、日本での研修を受けていらっしゃる場合には、次の質問のお答え下さい）
 - 1) 研修は、現在の研究に役立っていますか？（四者択一）
「おおいに役立っている」
「ある程度役に立っている」
「あまり役に立っていない」
「全く役に立っていない」
 - 2) 1) の回答が「おおいに」以外の場合、問題点は何ですか？ できるだけ具体的に教えて下さい。

以上

別添 4.北京市科技、センター長向けインタビューシート

1. インタビュー対象者 :北京市科学技術委員会(上位機関)の担当者

1-1. 主な目的 :本プロジェクトの実施機関の上位機関としてのプロジェクトに関する認識等の確認

1-2. インタビュー時間 :1時間(12/10午前を予定)

1-3. 主な質問項目

- 1) 本プロジェクトの上位機関としての全般的評価および今後のプロジェクトへの期待
- 2) 本プロジェクトと政府の開発計画や行政目標との関連(1992年12月の「北京市全体計画」の進捗も確認する)
- 3) 政府としての今までそして今後のプロジェクトへの財政的・制度的支援方針
- 4) プロジェクトをとりまく外部環境の変化

2. インタビュー対象者 :北京消防訓練センター所長

2-1. 主な目的 :プロジェクト運営の全般的状況についての情報収集

2-2. インタビュー時間 :2時間(12/8の総括協議で質疑を行い、不足部分についてのみ同日午後フォローをする。)

2-3. 主な質問項目

- 1) 北京市消防局にとっての本プロジェクトの意義
- 2) 本プロジェクトへの自己評価
- 3) プロジェクト目標・上位目標の達成見通し
- 4) PDM中の成果・プロジェクト目標・上位目標レベルの外部条件の実現見通し(特に、「消防法・基準の見直し」について)
- 5) プロジェクトをとりまく外部環境の変化(例えば、1992年12月の「北京市消防事業発展計画」など北京市の消防に関する最近の政策・計画の進捗度)
- 6) プロジェクトの運営管理方法(各種会議など中国側と日本側のコミュニケーションの状況、モニタリングの方法)
- 7) 財務管理状況(各年度毎の収支決算状況)について(本プロジェクトの財務関連資料に基づいてお聞きします)
- 8) 人員配置の見通し
- 9) 本プロジェクトの問題点・課題
- 10) 本プロジェクトの組織/制度・財務・技術的な自立発展の見通しと訓練センターの将来像(例えば、「防災館としてどう発展させるか?」、「消防署機能も併設するのか?」といった点)

以上

別添 5.研修生所属先インタビューシート ※アンケートではありません

*注. 研修生の所属先の上級管理者の出席を想定しているが、2. のような質問項目もあるため、研修担当者から研修生にも事前に聞き取りを行うなど準備してもらう。

1. 研修生派遣の効果

- 1) 研修生自身の評価（研修生の現在の所属先の確認、当初のニーズとマッチしているか、業務にどの程度役に立っているか）
- 2) 組織としての評価（当初期待した効果は現れているか、研修生の獲得した知識・技術を組織内で普及・発展することは可能か？）

2. 研修自体の詳細評価

- 1) 他の研修機関との比較した全般的な評価
- 2) 個別評価
 - － 講師の水準
 - － 講義の質
 - － 研修期間
 - － 研修機材の質
 - － 研修教材の質
 - － 研修運営管理

3. 訓練センターへの要望あるいは内容改善に向けての提言

以 上

別添 6.分野別インタビュー・シート ※アンケートではありません。

1. 計画達成度（質問対象者：中国側 C/P および派遣専門家）— ミニッツ中の Degree of achievement（計画達成度）に相当する部分

成果・活動の実績について、担当分野毎に聞き取りを行なう。主な確認項目は、以下のとおり。

1) 活動は、当初予定どおり行われたか？

註：できれば、進捗度を計画と実績のバーチャートで比較する。また、団員によるインタビューの準備として専門家、C/P に成果項目別・分野別のごく簡単なレポート（活動の達成度や自己評価を含む）を準備してもらうことがのぞましい。

2) 成果として何が達成されつつあるか？（PDM 中の指標の達成状況を確認する。）

註：以下から該当する項目を選択する

(1) 研修関連（成果項目 1 に対応）

- ・ 研修コース実施数
- ・ 研修参加者数
- ・ 研修カリキュラム
- ・ 作成、使用された教科書およびマニュアル・リスト
- ・ the number of qualified personnel — は、意味不明であるが、おそらく上記の「投入」で把握できると思われる。

(2) 研究開発関連（成果項目 2 に対応）

- ・ 本プロジェクトの中で実施された研究開発関連プロジェクト数およびそれに関するレポート

(3) 情報交換関連（成果項目 3 に対応）

- ・ プロジェクトの内外で開催したセミナーの記録（概要のみならず、主要な目的と出席者数や主な発表者名等々）
- ・ その他研修に関する情報交換に関する活動に関する記録

(4) 機材・設備関連（成果項目 4 に対応）

- ・ 上記の「投入」で把握できると思われる。

(5) その他研究の成果品およびリスト（例：研究成果をまとめたレポートや外部に発表された論文等出版物リスト等）

2. a 目標達成度（分野または課題毎に行なう）（質問対象者：タイ側 C/P および派遣専門家）－ミニッツ中の Effectiveness に相当する部分

註：この項目は、成果の達成状況の原因分析を行うところで、特に達成状況が芳ばしくない場合、活動の不十分さ（弱さ）が成果の不十分さに結びついたのか、それとも、他に成果に影響を与える問題があったかを分析する。したがって、質問としては、特に成果に影響した活動以外の事柄（例えば、投入や外部条件の問題）があったかどうかを確認して下さい。

b 効率性（課題または分野毎に行なう）（質問対象者：中国側 C/P および派遣専門家）－ミニッツ中の Efficiency に相当する部分

1) 以下の各投入項目の実施時期に関し、計画に比して実績はどうであったか？そのタイミングは、成果にどう影響したか？

- －（日本側）
 - ・ 専門家派遣
 - ・ 機材の供与
 - ・ 研修員の受け入れ
 - ・ ローカルコストの補助
- －（中国側）
 - ・ 土地、施設の提供
 - ・ C/P および関係職員の配置
 - ・ ローカルコストの支出

2) 以下の各投入項目の質・量に関し、計画に比して実績はどうであったか？また、「成果」の実現度からみて、以下の各投入項目の質・量（実績）の過不足はどうであったか？（当初予定外の成果が上がっていればそれも確認すること）

- －（日本側）
 - ・ 専門家派遣
 - ・ 機材の供与
 - ・ 研修員の受け入れ
 - ・ ローカルコストの補助

－ (中国側)

- ・土地、施設の提供
- ・C/Pおよび関係職員の配置
- ・ローカルコストの支出

3) 本プロジェクトの「成果」に影響を与えるような他機関／他国または日本からの他の援助は、あったか？あった場合、その影響は、具体的にどうであったか？

最後に、技術的な自立発展性に関し、機材の保守管理等がどの程度中国側でできるかをお聞き下さい（事前に送付した質問票に対する回答の確認で可）。

以 上

※太字部分は調査団員に対する指示内容です。

別添 7. チーフアドバイザー、調整員向けインタビューシート

1. インタビュー対象者 : チーフアドバイザー

1-1. 主な目的 : プロジェクト運営の全般的状況についての情報収集

1-2. インタビュー時間 : 2時間

1-3. 主な質問項目 (基本的には、北京消防訓練センター所長への質問事項とほぼ同じですが、技術援助を行う側からの見方として、あえて別々に聞きます。)

- 1) 本プロジェクトへの自己評価
- 2) プロジェクト目標・上位目標の達成見通し
- 3) PDM 中の成果・プロジェクト目標・上位目標レベルの外部条件の実現見通し及びプロジェクトをとりまく外部環境の変化
- 4) プロジェクトの運営管理方法 (各種会議など中国側と日本側のコミュニケーションの状況、モニタリングの方法)
- 5) 本プロジェクトの問題点・課題
- 6) 本プロジェクトの組織・制度・財務・技術的な自立発展の見通し
- 7) 国内支援体制への要望

2. インタビュー対象者 : 業務調整員

2-1. 主な目的 : 本プロジェクトの運営管理についての確認

2-2. インタビュー時間 : 1～2時間

- 1) 業務の概況
- 2) 業務実施上の課題
 - － 機材調達 (今までの状況と今後の見通し)
 - － 財務状況 (日本側、中国側)
 - － その他 (総務・人事)
- 3) 本プロジェクト運営上の問題点・課題
- 4) 国内支援体制への要望

以 上

付属資料13. アンケート結果のまとめ

北京消防訓練センターにおける研修への参加者に対するアンケート結果のまとめ

本調査においては、研修の参加者に対する別紙の質問票を用いたアンケートを実施した。回答者は、「消火戦術及び技術訓練・第1回」に参加した4名、「消火戦術及び技術訓練・第2回」に参加した5名、「消防設備操作及びメンテナンス・第1回」に参加した9名の計18名である。以下は、選択式回答と記述式回答それぞれのまとめである。

設問1. 研修の内容は、何らかの形で現在の業務に役立っていますか？

選択式回答の状況は以下の通りであり、ほとんどの研修生が「かなり役に立っている」と答えている。

4段階評価 \ 研修名	消火戦術及び技術訓練 第1回	消火戦術及び技術訓練 第2回	消防設備操作及びメン テナンス 第1回	全体平均
4. 非常に役立っている。			1	3
3. かなり役に立っている。	4	5	7	
2. あまり役に立っていない。			1	
1. 全く役に立っていない				
平均	3	3	3	

さらに、研修が役に立っている場合の具体例としては、以下の例が挙げられている。

【消火戦術】

- 1) 研修で得た知識が日常業務に役立っている。
- 2) 今回の研修を通じて、突発的な事故や自然災害に正しい対応ができる。
- 3) 現在の生活の中で、このような救助技術は欠かせないと思う。この技術によって、人に新たな生命を与えることができる。

【消防設備研修】

- 1) 今回の研修を通じて、再度設備の操作及びメンテナンスに付いて学ぶことができ、今後業務の中に活用していきたい。
- 2) 研修を通じて、今後防火単位（防火対象企業）の設備に対し、より詳細な検査ができると思う。
- 3) 現在担当している業務は、設備に関する内容が多く、今回の研修により検査項目及び方法について役に立つと思う。（複数）

設問2. 上記1. での評価への補足説明として以下の項目で該当するものがありましたら、複数選んでも構いませんので、選んで下さい。

本設問に対しては、下表のような回答があった。全体的に、研修を評価する意見が多い。

研修の効果 \ 研修名	消火戦術及び技術訓練 第1回	消火戦術及び技術訓練 第2回	消防設備操作及びメン テナンス 第1回	合計
1) 仕事はかなりはかどるようになった		1	1	2
2) 仕事の質が高まった	4	2	7	13
3) これから役に立つ技術である	4	5	4	13
4) 既知っている事柄であった			3	3
5) むずかしすぎた				
6) 業務に関連はあったが、理論的すぎて あまり実践的でなかった	4	2		6
7) 実践的ではあったが、業務にあまり関連 していなかった			3	3
8) その他			2	2

設問3. 下記の評価項目について、最もふさわしい選択肢を選んで下さい。

下表のように、ほとんどの項目において研修生の満足度は高いが、研修機材に関してはより高度なものを望む声が多い。

評価項目 \ 研修名	消火戦術及び技術訓練 第1回	消火戦術及び技術訓練 第2回	消防設備操作及びメン テナンス 第1回	合計
1) 研修レベル				
a. 高すぎる	0	0	0	0
b. ちょうどよい	4	5	9	18
c. 低すぎる	0	0	0	0

2) 研修期間				
a. 長すぎる	0	0	6	6
b. ちょうどよい	0	3	3	6
c. 短すぎる	3	2	0	5
3) 研修内容（講義・演習のバランス）				
a. 講義が長すぎる	0	0	1	1
b. バランスがとれている	4	5	8	17
4) 講師の指導方法・技術				
a. 優れている	4	5	7	16
b. 普通	0	0	2	2
c. 改善の必要が高い	0	0	0	0
5) 研修機材について				
a. 高度すぎる	0	0	0	0
b. 適切である	0	3	6	9
c. 簡易すぎる	4	2	3	9

設問 3. 以上の項目以外にも、是非改善すべきと思われる点がありましたら、以下に簡単に説明下さい。上記の回答に対する補足でも結構です。

以下のような改善提案があった。今後の参考にされたい。

【消火戦術】

- 1) もっといい機材を使った訓練をしてほしい。（複数回答）
- 2) 研修（訓練）期間中の雰囲気少し暗いので、もっと楽しい雰囲気作りに努力してほしい。

【消防設備研修】

- 1) 講師及び研修生の交流や研究を行うための消防設備の実験室を整備してほしい。
- 2) 設備の種類が少ない。もう少し整備してほしい。（例：化学工業関係）（複数）
- 3) 研修資機材（含む講義用）の改善が必要。
- 4) 各対象者にあったカリキュラム及び研修を実施してほしい。
- 5) 講師陣が少ない。

最後に、当センターでの研修効果を現在の職場で活かしていくために環境（組織・制度・設備等）の整備が必要であれば、記述して下さい。

【消火戦術】

設備の増強

【消防設備研修】

現在の職場には、本研修で使用した設備は備えていない。

付属資料14. 評価結果総括表

(1) 総括

調査団は、本プロジェクトについて総括的に以下のように評価した。

本プロジェクトは、開始から約 2 年が経過し、必ずしも当初予定した通りには研修活動が実施されていない分野もあるものの、既に終了した研修に関しては、受講生や所属先から高い評価を得るなど、確固たる実績を上げている。また、市民教育に関しては、センターの開設以来、多くの市民が連日防災館を訪れている。さらにセンターは、マスメディアでもしばしば大きく取り上げられるなど、現在、訓練センターとしての基盤が固まりつつあると評価できる。

(2) 5 項目による評価

1) 目標達成度（プロジェクトの「活動」が「成果」に、また、「成果」が「プロジェクト目標」の達成にどれだけつながったかの分析）

本プロジェクトの既存の PDM においては、プロジェクト目標と成果の区別が必ずしも明確でないの
で、以下では、活動が成果にどのように結びついたかを協力の分野別に記述した。

活動と成果の関係、阻害要因等	
1. 消火戦術及び技術 訓練	グラウンド及び濃煙熱気訓練棟の整備が遅れたことなどにより、研修の実施時期が当初予定より遅延した。しかしながら、中国側に救助技術に対する強いニーズがあったため、C/P が早期に配置された。既に 4 回の研修が実施でき、研修の基礎が築かれたと言える。
2. 消防設備操作及び メンテナンス	プロジェクト開始時点での実施計画が現実に適合しない点が判明したことによる研修実施計画の修正、C/P の不足、機材配置の遅れ等により、現在までの計画の達成度は必ずしも十分ではない。しかし、第 1 回の研修の評価は高く、本格的な実施に向けての体制が着実に進み、目標が達成される見込みはある。
3. 市民防火防災教育 指導	C/P に対する技術移転は順調に実施されており、必要なテキストも作成されている。開所式の模様がマスメディアに大きく取り上げられた結果、現在市民教育については当初想定した以上の目標を達成している。
4. 建築防火技術	プロジェクト開始時点での実施計画が現実に適合しない点が判明したことによる研修実施計画の修正、C/P 配置の遅れ、北京市消防局防火部との協議の機会の不足等により、当初計画の実施が遅れている。しかし、教材開発・技術移転は進行しており、また 2000 年 4 月には第 1 回の研修が計画されており、目標が達成される見込みはある。研修の本格的な実施に向けては、防火部との協議が重要である。
外部条件	プロジェクト開始時に想定した状況概ね満たされているが、「指導教官がセンターをやめない」との条件に対して実際は、指導教官である C/P 2 名（消防設備・建築防火各 1 名）が訓練センターを離れており、多少の悪影響を与えている。

2) 効果（プロジェクトが実施されたことによる直接的、間接的なプラス・マイナスの効果を検討）

効果の広がり	効果の内容（制度、技術、経済、社会・文化、環境面での効果）
<p>1.直接的効果 （プロジェクト目標レベル。ただし、今回は、中間評価であるため、プロジェクト目標より低いレベルを含む。）</p>	<p>1.消火戦術及び技術訓練分野において、研修受講生を核として救助業務を専門とする特別救助班が4隊設置されたことに加え、2000年度からは国家公安局からの委託研修として北京市外からの消防職員の受入が予定されている。特に前者は、研修が実社会に影響を与えつつあるという点で意義は大きい。</p> <p>2.救助技術に関しては、一部の研修修了者が、職場に戻った後2ヶ月にわたり週2時間同僚に講義を行ないさらなる技術移転を行っており、研修に参加していない消防職員へのプロジェクトの波及効果が確認された。</p> <p>3.市民防火防災教育指導分野において、防災館についての反響が予想以上に大きいことから、北京市一般市民向けの単なる見学コースの提供に留まらず、常時開設研修という形で、当初明確には予定していなかった一般市民に対する研修についても活動に加えられた。</p> <p>尚、本プロジェクトがもたらした好ましくない効果はこれまでのところ特に確認されていない。</p>
<p>2.間接的効果 （上位目標レベル）</p>	<p>特になし</p>

3) 実施の効率性（プロジェクトの「投入」から生み出される「成果」の程度を把握し、手法・方法・費用・期間等の適切度を検討）

協力の技術分野別に評価した。

<p>1. 投入のタイミングの妥当性</p> <p>(日本側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の派遣 ・ 機材の供与 ・ 研修員の受け入れ <p>(相手側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地、施設、機材の提供 ・ カウンターパートの配置 ・ ローカルコストの負担 ・ その他 	<p>1. 消火戦術及び技術訓練</p> <p>グラウンド及び濃煙熱気訓練棟の整備が遅れた（これにより、研修の実施時期が当初予定より遅れた）。</p> <p>2. 消防設備操作及びメンテナンス</p> <p>仕様の確定、購入手続き等に時間を要したため、機材の投入時期が遅れた。</p> <p>3. 市民防火防災教育指導</p> <p>特に問題ない。</p> <p>4. 建築防火技術</p> <p>C/Pの投入時期が大幅に遅れた。</p>
<p>2. 投入と成果の関係</p> <p>(投入の質・量と成果の妥当性)</p> <p>(日本側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の派遣 ・ 機材の供与 ・ 研修員の受け入れ <p>(相手側)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土地、施設、機材の提供 ・ カウンターパートの配置 ・ ローカルコストの負担 ・ その他 	<p>1. 消火戦術及び技術訓練</p> <p>濃煙熱気訓練装置に調整の必要が生じている。また、消火戦術分野のC/Pの投入は予定通り行われず、不十分であった。</p> <p>2. 消防設備操作及びメンテナンス</p> <p>機材の質・量は、満足できるものである。人の面では、C/Pの1名が途中で退職し、技術移転が遅れている。また、日本側専門家についても、量的・時間的に不足しており、追加の措置が必要である。</p> <p>3. 市民防火防災教育指導</p> <p>特に問題ない。</p> <p>4. 建築防火技術</p> <p>特に問題ない。ただし、質を論ずる前に、上記の通り、投入が適切に行われなかった。</p>
<p>3. 無償他の協力形態とのリンク ケージ/OECF、第3国機関、国際援助機関による協力とのリンク ケージ</p>	<p>特になし</p>
<p>4. 外部条件他</p>	<p>「指導教官がセンターをやめない」との条件に対して実際は、指導教官であるC/P2名（消防設備・建築防火各1名）が訓練センターを離れており、投入の不足につながっている。</p>

4) 計画の妥当性 (評価時におけるプロジェクト計画の妥当性を検討)

<p>1.上位目標の妥当性 ・開発政策との整合性 ・受益者ニーズとの整合性</p>	<p>中国政府は、消防分野において、「消防安全養成訓練活動の展開に関する通知 (以下「通知」)」や「消防改革と発展綱要 (以下「綱要」)」などの基本方針を定めている。本プロジェクトは、「通知」の第 1 項目に掲げられている「消防安全研修活動の制度化、日常化、規範化」に関わっている。また、「綱要」には、基本方針の 5 番目に「消防体制の合理化及び消防人員の強化」が掲げられている他、消防事業における教育及び広報活動の強化の手段として、特に「消防教育研修体制の整備 (訓練センターの建設)」が掲げられており、本プロジェクトは、まさしくこれに対応するものである。</p> <p>近年の経済発展に伴い、北京市の市街地の面積は拡大しつづけており、住宅・工場・高層建築物が増加している。特に中心部には高層の集合住宅や高層のホテル、デパートが増えており、こうした建造物の火災に対応する消防体制が求められている。また、北京市消防局の統計によれば、1990 年代の北京市内の火災件数は、4 千件台で漸増し、98 年には 4,700 件に達している。火災による損失額も 98 年に 4 千万元を越えている。したがって地域住民の消防体制強化へのニーズは高く、本プロジェクトの持つ意義は大きい。</p>
<p>2.プロジェクト目標の妥当性・実施機関の組織ニーズとの整合性</p>	<p>北京市消防局は、上記 1. のような課題に対応するため、消防局職員及び事務所から一般市民にいたるまでの幅広い人材育成を行うことを狙いとして、95 年 10 月「北京消防訓練センター」の設立を決定した。当局は、同センターにおいて、より近代的及び実践的な教育システムを築こうとしたが、中国は近代消防における体系的な教育システムづくりの経験が乏しく、かつ技術的なノウハウも十分ではなく、日本の技術への強いニーズがあった。</p>
<p>3.上位目標、プロジェクト目標、成果および投入の相互関連性</p>	<p>次にプロジェクトの基本計画 (PDM) の内容をみると、日常の活動から上位目標までが論理的に構成されている。ただ、これまでは、PDM に示された目標の指標がやや不明確であり、また実質的に PDM を補完する役割を持っていた長期調査の「資料 6. 実施する研修・訓練の範囲」に示された分野別の目標受講者数が過大であるとの問題があった。また、プロジェクト期間全体を通じた分野別の活動計画が明確ではなかった。</p> <p>しかしながら、今回の調査にあたり、調査団・プロジェクト参加者 (日本側専門家・中国側 C/P) の本格的な議論により PDM の指標は明確化され、さらに PDM を補完する形で、より現実的な目標をともなった分野別の技術移転計画が完成しつつある。</p>
<p>4.その他問題点 (ニーズ把握状況、プロジェクトの計画立案、相手国実施体制、国内支援体制等の観点から記述)</p>	<p>上述以外に特になし。</p>

5) 自立発展性

終了後の見通し	
<p>1. 制度的側面 (政策的支援、スタッフの配置状況、類似組織との連携、運営管理能力等)</p>	<p>現在センターは、基本的な組織を確立し、一定の人材を配置している。また、現在センターで実施している主要な研修コースである救助技術が、1998年度の消防法改正により消防の任務として明文化されるなどセンターの重要性は高まっている。しかしながら、センターの設立後、センターを含む消防局の総定員数が増やされていないため、センターへの人員配置が不安定であり、C/Pの配置が遅れている。また、センターでの諸活動について細部に至るまで上位機関の承認が必要であるため、センター長の決裁権限が強化されることが必要である。さらに、研修業務の運営管理についても、教務課のような組織がなく、研修の実施体制が不十分に思われる。</p> <p>これらについての改善が今後の課題である。</p>
<p>2. 財政的側面 (必要経費の資金源、公的補助の有無、自主財源、経理処理状況)</p>	<p>財政面に関しては、これまで北京市人民政府から合計約 4618 万元が支出されており、中国側の本プロジェクトへの財政的な貢献は大きい。また、北京市消防局によれば、プロジェクト終了後も、センター運営費として、消防局により毎年、99年度の日常経費・光熱費・訓練費(計約 130 万元)程度の負担が見込めるとのことである。</p> <p>しかし、今後活動の活発化に従い、機材の保守管理費等訓練センターの必要経費が増加することが予想されるため、将来的には、防災館における入場料の徴収等、自主財源の確保についても検討が必要である。この点に関しては、将来整備の予定である消防設備や危険物管理の資格に関する制度について、その資格認定の権限が訓練センターに付与される見込みであるなど、プロジェクト及び訓練センターを取り巻く環境は好転しつつある。</p>
<p>3. 技術的側面 (移転された技術・スタッフの定着状況、施設・機材の保守管理状況、現地の技術的ニーズとの合致状況)</p>	<p>技術面では、現在最も活動が活発であった消火戦術及び技術訓練分野において、C/Pが技術力を身につけており、この分野での自立発展性は高いといえる。また、今のところ、センターを退職したC/Pは、配置された全22名のうち2名(さらに、1名は、消防局内で異動)と少数であり、技術移転を受けるC/Pの定着度は今後も高いと思われる。機材に関しては、個人装備については既に国産化されており、ロープなど一部資機材については、現在国産品の開発過程にある。ただし機材の保守管理については、各分野とも責任者の配置や定期点検の実施といった体制は整っていない。</p>
<p>4. その他</p>	<p>特になし</p>

(3) プロジェクトの軌道修正の必要性および提言

事 項	軌道修正の必要性および提言
1. 計画内容	PDM に不明確な個所があったので、全面的に改訂した。
2. 組織面	<ol style="list-style-type: none"> 1. センターの組織としての自立性と機能を高めるために、訓練センターの常勤定員に制度的な根拠を与え、北京市消防局内で十分な数を確保する必要がある。 2. 今後増えていく研修を円滑に実施するために、教務課のような研修運営管理の部署が設立されることが望ましい。
3. 運営管理面	<ol style="list-style-type: none"> 1. PDM の補足資料と現在検討中である分野別の長期の技術移転計画を早期に完成することが必要である。 2. プロジェクトの運営管理において重要なモニタリングを強化する必要がある。具体的には、主に日本側専門家と中国側責任者 (C/P) により構成される定例会議を週 1 回程度開催すべきである。また四半期報告の作成をより PDM に連結したものにし、またその書式を日中双方で共有することが望ましい (註：調査団滞在中に団員と日本側専門家により試案を作成した)。さらに、合同調整委員会も年 1 回開催すべきである。
4-1. 技術面・全般	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予防関係分野の研修実施にあたっては、北京市消防局防火部の政策判断によるところが大きいので、同部の十分な理解と日本側専門家との十分な協議の機会を持つことが必要である。 2. 各分野における目標達成のために、専門家の派遣に合わせた十分な C/P の配置を行なった上で、受講生の明確化とそのニーズ把握を十分に行なうべきである。また、研修終了後の評価も毎回行なう必要がある。 3. 機材の保守管理について、各分野において、責任者の配置や定期点検の実施などの体制を整えていくべきである。
4-2. 技術面 (分野別)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消火戦術及び技術訓練 内容がさらに複数の分野 (一般消火戦術・指揮戦術・救助技術) に分かれているので、各分野毎の明確な研修計画を作成する必要がある。 2. 防火検査と監督 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本分野は予防分野の総括的な位置にあることから、チーフアドバイザーの兼任ではなく、長期専門家 1 名をあらたに派遣し、他の予防分野についてのフォローも併せて行うことが望ましい。 (2) C/P については、予防業務全般を経験した人材が配置されることが望ましい。 3. 市民防火防災教育指導 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民教育に関し、来客数に対応可能なだけの専従職員の配置が必要である。 (2) 防災館の機材については、今後の活用状況を見極めた上で、増強を検討する必要がある。 4. 危険物防火安全管理・消防設備操作及びメンテナンス プロジェクトに関連して、近い将来消防設備や危険物管理に関する資格制度が整備されることが予定されているので、こうした状況を勘案しながら、カリキュラムの作成などを進める必要がある。